

## タカラバイオ株式会社 2026年3月期 第3四半期決算補足資料

### 1. 2026年3月期 第3四半期について

【決算短信9ページ】

(売上高)

- ・ 「試薬」は、主に米国および中国での売上不振により、前期比▲7億8,400万円(▲3.5%)減収の216億4,000万円となりました。
- ・ 「機器」は、シングルセル解析システムやPCR関連装置の販売減少により、前期比▲5,500万円(▲8.6%)減収の5億8,900万円となりました。
- ・ 「受託」(CDMO)は、遺伝子解析/検査関連受託では全ゲノム解析の需要減や新規受注の未達により減収となりましたが、ベクター製造や品質試験受託で売上が伸長し、前期比+2億9,600万円(+8.5%)増収の37億9,200万円となりました。
- ・ 「遺伝子医療」は、mRNA合成用酵素が売上を伸ばしましたが、遺伝子治療薬製造補助剤であるRetroNectin®の大口顧客からの需要減が影響し、前期比▲3億4,500万円(▲12.7%)減収の23億7,000万円となりました。
- ・ 以上により、売上高は、前期比▲8億8,900万円(▲3.0%)減収の283億9,200万円となりました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、売上高の減収の他、売上構成の変化の影響やコロナ禍で積み増していた原材料在庫の見直しによる棚卸資産評価損の計上などにより、前期比▲22億2,900万円(▲13.6%)減益の141億4,000万円となりました。

(営業利益)

- ・ 販売費及び一般管理費は、経費削減に努めたものの、Curio Bioscience社の買収に関する費用およびのれん償却費を計上したことなどから、前期比+11億5,200万円(+6.5%)増加の189億9,500万円となりました。
- ・ 以上の結果、前期比▲33億8,100万円減益の48億5,500万円の営業損失となりました。

### 2. 試薬事業の状況について

- ・ 当社の研究用試薬の売上高は、海外の構成比率が高く(2026年3月期第3四半期累計実績で海外比率約80%)、世界各国の経済状況や市況などの影響を受けます。当第3四半期においても、米国、欧州のインフレの長期化、中国の経済不況、地域紛争などの地政学的リスクの高まりなどにより、ライフサイエンス業界において、物価高や金利の高止まりなどの影響から研究予算が縮減され、産業界およびアカデミアなどにおける研究開発のアクティビティの低下が続いています。
- ・ 米国では、インダストリー向けのOEMやカスタム製品販売が好調に推移したものの、アカデミアにおいては政府方針によりライフサイエンス研究への助成金が大幅

に削減され、基礎研究全体が低調に推移いたしました。この結果、試薬外部売上高は為替影響を除くと前期比+5,100万円(+0.5%)に留まり、97億9,100万円となりました。

- ・ 日本では、アカデミアを中心に市況が引き続き低調で、ライフサイエンスの研究の停滞が続いていますが、ノロウイルス検査用試薬などのアプライドフィールド製品の販売が好調に推移し、試薬外部売上高は前期比+5,300万円(+1.2%)の44億4,700万円となりました。
- ・ 欧州では、インフレの影響や地政学的リスクの影響などにより研究開発投資が低迷しているものの、インダストリー向けのOEMカスタム製品やmRNA合成用酵素の販売が好調に推移し、試薬外部売上高は為替影響を除くと前期比+1億6,100万円(+6.6%)の26億3,600万円となりました。
- ・ 中国では、長引く経済不況と政府からの研究資金が縮減する状況下、コロナ禍を経て急成長した中国国内企業との競争が激化しています。昨年度に実施した代理店変更に伴う在庫調整の影響もあり、試薬外部売上高は為替影響を除くと前期比▲7億6,800万円(▲18.5%)の33億1,600万円となりました。
- ・ 韓国では、政府の研究費予算の支給が遅延している影響で顧客の購入控えが継続しているものの、販売は前期より回復し、試薬外部売上高は為替影響を除くと前期比+2,200万円(+2.6%)の8億4,900万円となりました。
- ・ インドでは、インド製造製品の販売が堅調に伸長し、試薬外部売上高は為替影響を除くと前期比+7,200万円(+12.9%)の5億9,900万円となりました。
- ・ 特に注力しているSpatial製品の販売状況について、欧米を中心に、興味を示す顧客の数は順調に増えており、空間解析研究への興味が広がっていることが窺えますが、研究予算縮減の影響などにより受注まで至っておらず、当初の売上予想との乖離が続いています。顧客への技術トレーニングやセミナーなどを実施して、営業を強化し、受注につなげてまいります。

(参考) 第3四半期 試薬 地域別外部売上高

(百万円)	26/03期 第3四半期	前期比		
		増減額	うち為替影響額	増減率 (為替影響除く)
米国	9,791	▲171	▲222	+0.5%
日本	4,447	+53	-	+1.2%
欧州	2,636	+179	+18	+6.6%
中国	3,316	▲847	▲79	▲18.5%
韓国	849	▲32	▲55	+2.6%
印度	599	+34	▲38	+12.9%
合計	21,640	▲784	▲377	▲1.8%

### 3. 受託(CDMO)事業の状況について

- 再生医療等製品関連受託は、納期が第4四半期にずれしたことなどにより細胞加工は減収となりましたが、ベクター製造および品質試験は増収となったことにより、全体で前期比+8億2,300万円(+54.6%)の23億3,100万円となりました。
- 遺伝子解析/検査関連受託は、ゲノム解析受託案件の減少や他社との競争激化などにより、前期比▲4億7,100万円(▲28.3%)の11億9,700万円となりました。
- 再生・細胞医療・遺伝子治療分野において、当社が対象としている国内の製薬会社の開発方針の変更等により、市況が急激に変化しています。このような状況下で、当社は、初期開発プロジェクトへの対応も強化し、バイオベンチャーに伴走するC“R”DMOに注力しています。
- 再生・細胞医療・遺伝子治療分野への日本政府の支援は拡大しており、バイオベンチャー等によるプロジェクトが数多く立ち上がっています。開発初期のため売上規模はまだ小さいですが、これらバイオベンチャーからの受注を積み重ねています。

(参考) 第3四半期 受託(CDMO)事業売上高

(百万円)	26/03期 第3四半期	前期比	
		増減額	増減率
再生医療等製品関連受託	2,331	+823	+54.6%
遺伝子解析/検査受託	1,197	▲471	▲28.3%
その他受託	263	▲55	▲17.3%
受託合計	3,792	+296	+8.5%

### 4. 遺伝子医療分野の状況について

- 遺伝子医療分野は、製造補助剤 mRNA 合成用酵素が売上を伸ばしましたが、RetroNectin®の大口顧客からの需要減が影響し、為替影響を除くと前期比▲3億1,200万円(▲11.5%)の23億7,000万円となりました。

(参考) 第3四半期 遺伝子医療分野売上高

(百万円)	26/03期 第3四半期	前期比		
		増減額	うち為替影響額	増減率 (為替影響除く)
遺伝子医療	2,370	▲345	▲33	▲11.5%

以上